

平成 28 年度(公社)福岡県建築士会地域貢献活動報告

■麻生建築&デザイン専門学校 建築サークル

代表者：専任教員 稲吉大樹

〈共同研究者：ものづくり大学 建設学科 准教授 戸田都生男〉

団体所在地：〒812-0016 福岡市博多区博多駅前 1-11-13

☎092-415-2292

E-mail：daiki@asojuku.ac.jp toda@iot.ac.jp

URL：http://www.asojuku.ac.jp/act/

会員数（学生及び関係教員数）16名(学生14,教員2名)

設立年月日：平成26年4月15日

テーマ

博多駅前周辺における木の空間の実態・評価調査

-木の外部・内部空間が「賑わい」に及ぼす影響の観点から-

□ 活動目的

H26年度の調査では、博多駅前周辺の木の空間は主に居酒屋や飲食店の外観に多いことがわかった。またH27年度は観察調査の結果、緑や木のある空間のベンチが博多駅前の「賑わい」に繋がる可能性を示唆した。

そこで、本年度は具体的にH26年度の木の空間MAPの更新版を作成してガイドツアーを行い、木の空間を客観的に評価するアンケート調査を実施した。本活動・研究の目的は、博多駅前周辺の木の空間が「賑わい」に及ぼす影響を考察し、地域活性化への貢献に寄与することである。

□ 活動概要

博多駅前周辺の“木材を利活用した空間”（以下、木の空間：インテリア・エクステリア・建築等）の①実態調査を行い、博多駅周辺の“木の空間”をまとめたインフォメーションツールを作成した。それをもとに、②ユーザー参加型のガイドツアーを実施し、さらに③アンケート調査をして、木の空間の客観的な評価のもと「賑わい」の要因分析を行う。

《活動内容①》実態調査・インフォメーションツール作成

博多駅周辺における木の空間（インテリア・エクステリア・建築等）の現状を把握し、インフォメーションツールとしてH26年度に作成した“きになる木の空間MAP”の更新版となる「HAKATA WOOD MAP（以下MAP）」を作成した（図1）。

①-1) 調査の方法

H26年度と同様に、主に徒歩で調査が容易なJR博多駅を中心に博多口側（西側）と筑紫口側（東側）、北側は御笠川、南側は本校の校舎付近のエリアを調査範囲とした。各エリアをサークルメンバーで分担して複数回のまち歩きを行った。その際、明らかに建築物等の外部に木材が使用されている空間を写真撮影した。また、店舗等の内部はサークルメンバーが各々プライベートで訪れた空間を管理者の許可を得て写真撮影した。なお撮影禁止の空間はスケッチを行った。

①-2) 調査の結果

博多駅前周辺の木の空間の分類を行った結果、多い順に居酒屋(197軒)、飲食店(137軒)、その他(55軒)、寺社(15軒)であった。その他は主に宿泊施設・物販店・事務所ビル等であった。【参考：H26年度時の調査結果：居酒屋（171軒）、飲食店（101軒）、その他（35軒）、寺社（9軒）】

これらの物件について、博多駅前周辺を6つのエリア（A博多口祇園・B博多口博多駅前・C博多口天神方面・D博多口住吉・E筑紫口博多駅南・F筑紫口比恵）に分類しMAPに表示した。

①-3) MAP作成

全調査エリアの中から、主に各エリアの分散を考慮して博多駅周辺の22カ所を選定し、それぞれ写真をもとにスケッチを描きMAPを作成した。



HAKATA WOOD MAP（使い方）



（外面）



（内面）

～ウッドデザイン賞2016受賞～

本活動の中で作成した「HAKATA WOOD MAP」がウッドデザイン賞2016を受賞した。

●主催：ウッドデザイン賞運営事務局（特）活木活木森ネットワーク、(公社)国土緑化推進機構、(株)ユニバーサルデザイン総合研究所 ●林野庁補助事業

ウッドデザイン賞受賞



JAPAN WOOD DESIGN AWARD 2016

図1：HAKATA WOOD MAP

《活動内容②》建築ツアー実施

作成した MAP をもとに、ユーザー参画型でガイドツアーを複数回実施し、サークルメンバーが参加者を MAP 掲載場所に案内し、各建築等の空間を説明して回った(写真1)。なお、今回の対象は本校(麻生建築&デザイン専門学校)の学生のみとし、実施後にアンケート調査を行った。



写真1: ガイドツアーの様子(緑色着用がガイドのサークルメンバー)

《活動内容③》アンケート調査

木の空間が、利用者にどのように評価されているのかを把握するために下記の手順でアンケートを実施した。

③-1) 調査の方法

今年度は先行調査として4カ所(下記★マーク)を調査対象として選択した(他18カ所も次年度以降調査予定)。選択基準はMAP掲載の22カ所を表1のとおり、〈建築用途〉と〈内部空間・外部空間〉ごとに区分し、居酒屋・飲食店・寺社・その他の用途から各1カ所ずつとなるように選択した。加えて、内部・外部空間をそれぞれ2カ所ずつ選択し和風・洋風・植栽有無も考慮した。

表1: MAP掲載22ヶ所の分類表(★:今年度アンケート調査対象)

用途	内部空間	外部空間
居酒屋	★芳々亭(和風・植栽無)	ハイカラ酒場かくれんぼ Fish&Dining 五 rosuke 肴や だんじ 大衆酒場ごえん
飲食店	PATAGE ブラジレイロ	★Balanc Café(洋風・植栽有) 慶州ほもん駅前店 Café colore 肉処 牛癒 博多水たき濱田屋 DAYLIGHT KITCHEN ORGANIC
寺社	-	★承天寺(和風・植栽有) 櫛田神社
その他	★マルイ休憩スペース(マルイ5F楽水園のやすらぎ) (洋風・植栽有)	マルイ 博多駅 THE TREAT DRESSING 博多町屋ふるさと館 キャナルシティ

アンケートは各授業の最後に15分程度の時間を設けて、3回に分けて教室内で実施した。選択した上記4カ所の空間はスケッチを用紙に掲載し同じ場所の写真も投影して、「歴史的な-現代的な」「居心地がよい-居心地が悪い」等、10組の形容詞対を用いて7段階の印象評価を被験者に求めた。分析は1~7点まで得点化し平均値と標準偏差を求めて、木の空間の客観的な評価を定量的に把握した。なお、被験者数は合計84名で実施日と内訳は次のとおりである。

第1回: H29年1月24日 31名 建築工学科1年

第2回: H29年1月25日 24名 建築学科1年

第3回: H29年2月22日 29名 建築工学科1年

③-2) 調査の結果と考察

アンケートの印象評価結果を図2に示す。木の空間の前提である「木材が少ない-木材が多い」では、4カ所とも「木材が多い」側に評価され、MAPのスケッチは概ね木の空間と認識されていることがわかる。

評価のばらつきは小さい順に、「居心地が悪い-居心地がよい」「人が通過しやすい-人がとどまりやすい」「親しみのある-親しみのない」であった。総じて評価は4カ所とも「人が通過しやすい」側に偏ることなく、「居心地がよい」「親しみのある」側にそれぞれ偏る傾向があった。以上より、木の空間は居心地がよく親しみがあることから、人が魅了され「賑わい」に影響を及ぼしていると考えられる。

評価のばらつきは大きい順に「歴史的な-現代的な」「雰囲気が暗い-雰囲気が明るい」であった。承天寺は極めて「歴史的な」側に偏り、Balanc Caféとマルイ休憩スペースはやや「現代的な」側に偏る傾向があり、木の空間の新旧の違いが明確な評価となった。マルイ休憩スペースの評価は比較的「雰囲気が明るい」側にも偏る傾向があった。

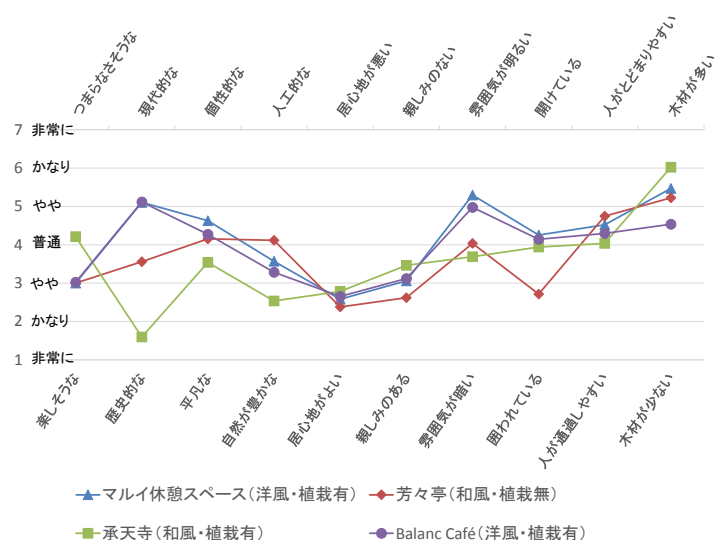


図2: 木の空間の印象評価・平均値プロフィール

これらより、特にマルイ休憩スペースのように洋風で植栽が有る木の内部空間の商業施設は、自然素材を活かした事例であり、現代的で雰囲気が明るいいため、多くの人に注目され「賑わい」に繋がると推測される。

□ 成果と課題

主な成果と課題を以下に示す。

- ・作成した「HAKATA WOOD MAP」をもとにガイドツアー実施し、専門的な視点から解説することで、博多駅前周辺の木の空間の魅力を伝えることに貢献できた。
- ・木の空間は「居心地がよく」「親しみがある」場所のため、人が魅了されることで「賑わい」に影響を及ぼす可能性がみられた。
- ・特に現代的で雰囲気が明るい木の内部空間(商業施設)は「賑わい」に繋がると示唆した。
- ・調査対象者は本校学生で比較的近い価値観を持つ可能性があるため、異なる属性を対象とした調査が課題である。

(公社)福岡県建築士会 まちづくり委員会